

**2019年度(令和元年度)**

**自己評価報告書**

**学校法人 東北外語学園  
東北外語観光専門学校**

## ■2019年度（令和元年度） 自己評価について

本校では、学生等が関係業界等のニーズを踏まえたより質の高い職業教育を継続的に享受していけるように、学校運営の改善を目指し学校自己評価を行いました。評価にあたっては、文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に実施しております。この自己評価の結果を活用し、さらなる教育活動並びに学校運営等の質の向上に努めてまいりたいと考えています。

1. 対象期間：2019年（令和元年）4月1日 ～ 2020年（令和2年）3月31日

### 2. 実施方法

- (1) 実施時期：2020年5月
- (2) 実施回数：年1回
- (3) 実施体制：校長を中心に教職員で自己評価を行っております。
- (4) 評価結果の公表方法：当該報告書を本校ホームページに掲載して公表

### 3. 自己評価の項目

自己評価は、以下の10項目について実施しております。

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献
- (11) 国際交流

評価項目の達成および取組状況

(1).教育理念・目標

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	学校の理念・目的・育成人財像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1
②	学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1
③	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
④	学校の理念・目的・育成人財像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	③	2	1
⑤	各学科の教育目標、育成人財像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① 学則に、「欧米等の語学に関する専門教育を施し、高度な語学力と豊かな国際感覚を養うとともに、あわせて一般教養の向上をはかり、社会の発展に寄与する有為な人材の養成をはかる」と定められており、これに基づき、各学科の専門分野の特性をパンフレット等で明確にしている。目まぐるしく変化していく世の中に柔軟に対応していくことができる職業人を養成するために、専門領域にかかわる知識・技術力を高めつつ、それをより広い分野で応用できるように、さらに指導方法、指導内容に工夫を重ねていきたい。
- ② 国際化する社会に対応できる職業人を養成するため、どの学科においても外国語科目を必修科目として課している。
- ③ 社会の新たなニーズをすばやくつかみ、新学科、コースの設置を積極的に行っていく。そのような観点から、令和2年度にビジネスデザイン科を開設する。
- ④ ホームページ、学校紹介パンフレットの中で、また、オープンキャンパス、入学相談会などにおいて、学校の理念その他について、多面的に知ってもらうように一層努力していく。
- ⑤ 業界関係者とのコミュニケーションを密に図りながら、業界のニーズを的確につかみ、カリキュラム編成にも反映させるように努めていきたい。

(2).学校運営

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
②	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
③	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	③	2	1
④	人事、給与に関する規定等は整備されているか	4	3	②	1
⑤	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1
⑥	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
⑦	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	③	2	1
⑧	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

■状況、課題、改善策について

- ①② 理事会で承認された事業計画をもとに毎年運営方針を策定している。運営方針及び事業計画は、学校法人の全職員を対象として職員会議等の機会により周知している。
- ③ 学校運営に関する組織は整備されており、必要に応じて部門間で意見交換の上、適正に判断し業務を遂行している。高度情報化社会に対応するため令和元年度より「ITソリューション」という組織を編成したが担当者のスキルアップが課題となっている。
- ④ 現在の学校運営の状況に対応するため就業規則等の改定を行ったが、一部検討を要する事項があったため、専門家及び関係各署に相談をしている。
- ⑤ 意思決定については学園の規程において定められている校務分掌、職務権限に従って行われ、有効かつ効率的に運営されている。各部門ごとに、校務分掌表を作成し、担当する業務を明確にしている。
- ⑥ 学校として法令や基準等で確認が必要な場合は、宮城県担当者に随時問い合わせ、適切に対処している。また随時専門家等に相談し、学校法人として基本的なコンプライアンス体制は整備されている。
- ⑦ 各種学校行事の活動状況や学科毎の教育活動・成果については、ホームページで情報公開を行っている。
- ⑧ 成績・出欠管理システムの老朽化のため今年度基幹システムの更新を行った。今後は情報化社会に対応するためさらにシステムの導入を図っていきたい。

(3)教育活動

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	③	2	1
②	教育理念、育成人財や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	③	2	1
③	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
④	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	③	2	1
⑤	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	3	②	1
⑥	関連分野における実践的な職業教育(産学連携におけるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4	③	2	1
⑦	授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
⑧	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	②	1
⑨	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
⑩	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
⑪	人材育成目標の達成に向け事業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	③	2	1
⑫	関連分野における業界等の連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
⑬	関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われて	4	③	2	1
⑭	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① パンフレットやホームページなどで教育理念がわかりやすく表示されているとよい。
- ⑤ 英語科については関連分野との連携は少なく、今後関連企業と連携をしながら実習等を計画できたらよいと思う。
- ⑥ 特定の科目と専攻では実習を行っているが、実技や実習の機会を増やし実践的な能力を養うことで進路選択へも繋げられるとよいと思う。
- ⑦ 全科目で授業アンケートを実施し、担当講師にも結果を配布している。
- ⑨ 判定基準は明確である。
- ⑩ 英語科については英検とTOEICに、目標級、目標スコアの取得に向けて指導している。学生の級やスコア毎に合わせたクラスを設定し学生一人ひとりの習熟度にあった環境を整えている。
- ⑬ 知識や技術などを習得するための研修を受講できる機会は少ない。
- ⑭ 機会はほとんどない。

(4).学修成果

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	就職率の向上が図られているか	4	③	2	1
②	資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	2
③	退学率の低減が図られているか	4	③	2	3
④	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	4
⑤	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	5

■状況、課題、改善策について

- ① 英語科については就職率の向上があまりない。在学中は就職希望だったが卒業後にアルバイトを選択する学生も数名いた。
- ② 1年生の英検準2級1次試験の合格率は下がったが、2次試験の合格率は全体的に上げることができた。2次試験前の課外講座の効果がでたと思う。1・準1級の合格者を継続的に出すこと、そして2級の合格率を上げることも課題である。
- ③ 退学者数は減少した。引き続き本人の意思も尊重しながら保護者とも情報共有をし、精神的なサポートを強化していきたい。
- ④ 卒業後の活躍や評価はあまり把握できていない。

(5).学生支援

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
②	学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
③	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
④	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1
⑤	課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
⑥	学生の生活環境への支援は行われているか	④	3	2	1
⑦	保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
⑧	卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
⑨	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1
⑩	高校・高等専修学校等の連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	④	3	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① 担任が就職、進学指導の窓口となっており、講師とともに自己分析、履歴書作成指導、模擬面接指導を行っている。また進路指導室では求人情報の取りまとめと学内企業説明会、学内就職セミナーを行っている。
- ② 担任制を採用し、定期的に学生と面談を行い学習、健康、生活面での相談を行っている。なお特に対応が難しい精神的な問題には、臨床心理士などの専門家をスクールカウンセラーとして配置し担任と連携して相談にのっている。
- ③ 本年度は高等教育の修学支援新制度に関する確認申請を行い、対象校となったことで今後は経済的に困窮している学生に対してこれまで以上に支援ができると考えている。また引き続き日本学生支援機構の奨学金制度、入学時の学費サポート制度、2年次特待生、学費の延納・分割納入など様々な側面から経済的に支援する制度も継続していく。
- ④ 毎年定期的に学生の健康診断を行っている。保健室も常備し、カウンセラーも配置して精神面の相談もできる体制を整えている。
- ⑤ 課外活動として毎年バスツアー、スポーツ大会、クリスマスパーティーなどを実施している。日本人学生と留学生の交流の機会を設けている。
- ⑥ 学校の近くに学生寮を設置している。ここでは寮監が常駐し、学習面や生活面から進路の相談まで幅広く対応している。
- ⑦ 保護者には前後期の期末試験後、各科目の成績・出席状況を発送し、学習面・出席面について伝えている。さらに学校の進路の状況についての取り組みの案内文書を同封し、家庭へも就職活動支援のお願いをしている。なお体調不良、悩みによる不登校の学生や問題を抱えた学生の保護者にはその都度担任から電話や家庭訪問による報告・相談を行い改善に向けた連携を行っている。
- ⑧ 同窓会総会を毎年実施し、卒業生への情報提供の場を設けている。しかし毎年参加人数を増やすことが課題である。
- ⑨ 社会人のニーズを踏まえた学科として「1年専科」を開設し、社会人経験者がまず1年間勉強し、継続して学習を続けたい場合は2年次に転入できるなどの制度を設けている。

- ⑩ 高校生へのキャリア教育推進のため職業理解の模擬授業をはじめ、各種ガイダンス等へ積極的に参加している。また高校へ出張講座も実施して語学教育の普及に努めている。また本校への上級校見学も積極的に受け入れており、これまで多くの中学生が本校に来校し、職業体験をした。

#### (6).教育環境

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように設備されているか	4	③	2	1
②	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
③	防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

#### ■状況、課題、改善策について

- ① OA教室のWindows7サポート終了になることに伴い、OSとOfficeの更新を行った。また新学科の設置に伴いWiFi環境を整えた教室を準備している。パソコンも老朽化が目立ってきているので、今後の授業運営の在り方を再検討するとともに、それに応じた環境整備を行っていききたい。
- ② 学科毎の外部実習や海外語学研修を企画し実施している。
- ③ 大規模の地震を想定した避難マニュアルを作成し、年に2回避難訓練を行うようにしている。内容は災害対策本部の設置、避難経路及び誘導手順の確認、校舎の自衛防衛組織の体制作り等である。特に本校では留学生が多いのでいかに留学生を迅速に誘導できるかが課題である。

#### (7).学生の受入れ募集

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
②	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
③	学納金は妥当なものになっているか	④	3	2	1

#### ■状況、課題、改善策について

- ① 本校の募集活動については、特に入学後のミスマッチによる出席不良や中途退学等が生じないようにイベント等を通して本校の特徴、学科概要、カリキュラム等を的確に伝えていくことを常に心掛けている。ガイダンスやオープンキャンパスで進路相談に応じる際も、十分にヒアリングを行い本校の情報提供だけに留まらず、その生徒に合った分野の紹介や学校選択のポイント等についてもアドバイスをしている。今後については、さらに本校のこともご理解いただくために、複数回来校してもらえるようなイベント設計を検討していきたい。
- ② 教育成果を伝える手段としては「学校紹介パンフレット」「本校ホームページ」「各種イベント」等を通じておこなっているが、見やすさ、分かりやすさ、伝わりやすさを意識して制作及び伝達に取り組んでいる。オープンキャンパスでは、よりリアルな情報が提供できるように学生スタッフを配置し、参加者とフリートークできる時間も設けている。引き続き教育成果(実習研修、資格取得、就職、進路実績)については、より迅速に最新情報を発信できるように心掛けていきたい。
- ③ 健全な学校運営を基本とし、進学希望者の家計などの環境変化等も踏まえ学納金を決定している。また経済的困窮者が増加傾向にあることから、本校では定期的に学費サポート制度の検討を行うようにしている。令和2年度は、年間学費が55万円・月謝制で自立進学を可能とする「ビジネスデザイン科」を新設し、経済的な理由で進学をあきらめかけている生徒に対応した学納金となっている。

## (8).財務

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1
②	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
③	財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
④	財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

### ■状況、課題、改善策について

- ① 公開している財務諸表の通り、学園の財政基盤は安定している。今後も学生数の確保を図り、健全な財務体質を維持するように努めていく。
- ② 毎年度の事業計画と予算については法人本部、各学校で編成・審議を行い、前年度末の理事会に諮ることとなっている。理事会での決定事項に従い適正に実行している。
- ③ 会計監査は関連法規により監査法人及び監事により適正に行われている。
- ④ 私立学校法により閲覧に供することが義務付けられている事業報告書及び財務情報についてはホームページに公開している。

## (9).法令等の遵守

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	法令、専修学校設置基準などの遵守と適正な運営がなされてるか	4	3	②	1
②	個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか	④	3	2	1
③	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1
④	自己評価を公開しているか	4	③	2	1

### ■状況、課題、改善策について

- ① 設置基準の遵守については適正に行っている。一方教職員の就業規則について一部不備が指摘されているので専門家・関係各署の助言・指導を受けている。
- ② 個人情報保護に関しては「個人情報への取り組み」(個人情報保護方針)を定め、適正な保護の実現を行っている。
- ③ 各部署ごとに年度計画を策定し、週次、月次の会議で進捗状況を確認・共有している。また課題を発見し、改善策を検討していくPDCAのサイクルを出来るだけ迅速に回転していけるように努力している。
- ④ 自己評価の結果については「学校自己評価報告書」としてホームページによる公開を行う。



(10).社会貢献・地域貢献

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2	1
②	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	③	2	1
③	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	3	②	1

■状況、課題、改善策について

- ① 2019年度第2回、3回の英検の2次試験会場の提供をした。
- ② 定期的に学生ボランティア活動の案内を出し、希望者を募っている。長期休暇を利用してイベントサポートや中学生の学習サポートなどを行っている。

(11).国際交流

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	④	3	2	1
②	留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているのか	④	3	2	1
③	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④	3	2	1
④	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	③	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① 募集においても、入学生の受け入れにおいても、特定の国に偏ることがないようにしている。その結果、中国、韓国、ベトナム、ネパール、パキスタン、バングラデッシュ、スリランカ、ウズベキスタン他の国々からの留学生が在学するようになった。今後は、これまでに蓄積されたネットワークをさらに拡充し、最近入学生がなかった国についても募集活動をおこないたい。
- ② 受け入れについては、日本語学習のモチベーションを特に重視している。そのために、入学希望者については、必ず十分な時間をかけて面接を行い、出願書類の審査においても、日本語力だけでなく、日本に留学する目的が真摯なものであるかを慎重に判断している。入学後は、在籍管理を徹底している。また、留学生のための男子寮・女子寮を用意して、住居面での便宜を図っている。
- ③ 教職員全員体制で出欠管理にかかわることとし、学習指導、生活指導を重層的に行い、きめ細かな指導を行うことによって、学習意欲の維持、健康の管理、規則的な生活を送ることができるように指導している。アルバイト、就職についても、専任の職員を配して指導に当たっている。
- ④ 日本語学習の成果を発表する場として、日本語科生のみによる「スピーチ大会」、日本人と合同での「スピーチコンテスト」を毎年開催している。また、ホームページ等において随時学校行事等の紹介を行い、学外へ発信することに努めている。